

要素名：医療

はじめに（Introduction）：

・適宜、適切な医療（診断、検査、治療）を受けることは、健康レベルが低下しやすい障がいのある人々の健康的な状態や生活機能維持に不可欠である。

目的：

・障がいのある人々が、それぞれのニーズに基づいた全般的かつ、専門的医療サービスを利用する。

CBR の役割：

・障がいのある人々の健康状態や機能障害を診断、予防、最小化し、また回復するためのサービスの利用を保証するために関係者と協働する。

期待される成果：

CBR ガイドライン：

- ・ CBR ワーカーにより個人のニーズに合った専門的医療への照会
- ・ 健康状態や機能障害の早期発見
- ・ 医療を提供する施設が利用しやすいよう、インクルーシブになるよう改善
- ・ 機能障害の影響の最小化や回復、健康状態や生活機能の改善に寄与する外科手術を受けられる
- ・ 自己管理スキル（治療や健康状態管理について質問し、説明をうけたうえで決定する）の育成
- ・ 医療従事者は医学的ニーズの理解を深め、人権や尊厳を尊重して良質な医療を提供できる

主要概念：

CBR ガイドライン：

- ・ 医療の種類：1次、2次、3次医療へのレベルに応じた適切な医療の受給
- ・ 障がいのある人々のための医療：全身状態のための医療必要性、早期発見、特有の医療ニーズ
- ・ 外科手術：機能障害の回復、合併症の予防や軽減 VS 高額、知識不足、術後のフォローと連携
- ・ 自己管理：医療従事者と協働した自己管理方法、自助グループで知識や技術の情報共有

推奨される活動（Suggested activities）：

CBR ガイドライン：

・ 医療サービスに関する情報収集：医療サービス提供者および施設、種類・利用のしやすさ・費用・スケジュール・照会制度、など関連情報の一覧を地域言語で作成し、閲覧可能とする

- ・ 早期発見の支援：医療従事者と協働し、関連する健康状態や機能障害の早期発見制度構築、感染症や非感染症のスクリーニングの場所・日時などの情報提供と利用保証、遺伝的家族歴に関して適切な照会、二次的障害への注意、外科手術で回復の可能性のある者の把握
- ・ 早期治療の保証：フォローアップの確認、適切なレベルの医療受給の確認、代弁と適切な医療受給の支援、治療費など問題解決のための協働、サービス提供格差の把握と是正
- ・ 外科的ケアへの照会：種類と基金の利用、十分な説明の確認、術後スムーズな移行と連携
- ・ 慢性疾患の自己管理を促進：健康への責任とライフスタイルの実践、資料をわかりやすく変換、自助グループとのつながり作成
- ・ 医療従事者との関係作成：医療従事者の認識向上、相互的勉強会や経験交換会の開催、治療計画への参加促し、早期発見のために CBR ワーカーへの教育依頼、地域保健プログラムからの受益

注目すべき BOX があれば抜粋を紹介（番号を明記）：

要素名：補装具

はじめに（Introduction）：

・ 中所得国では高額、品質の低さ、生産量の少なさ、作成可能な人材不足などが課題で補装具の使用率は低いが、日常生活と地域生活への活動的かつ生産的な参加を実現するために補装具は必要不可欠であり、予防にも有用とされてきている。

目的：

・ 障がいのある人々が、良質かつ適切な補装具を入手する権利をもち、家庭、職場、地域生活への参加が可能となること

CBR の役割：

・ 共に活動し、補装具に関するニーズの把握と利用促進、メンテナンス、修理、交換を保証

期待される成果：

CBR ガイドライン：

- ・ CBR ワーカーが補装具の種類、適応、作成、地域での入手と照会などに精通
- ・ 障がいのある人々とその家族は情報をうけたうえで補装具の入手と使用を決定
- ・ 指導、教育、フォローアップの提供による補装具の適切な使用・管理を可能とする
- ・ 障がいのある人々とその家族や地域住民も基本的な補装具を作成、修理、管理を可能とする
- ・ 不適切な情報、財政的制約、都市部のみでの受給など補装具を入手するための問題が減少する
- ・ 補装具が必要とされる場所で、人々が使用できるように環境要因への対処ができる

主要概念：

CBR ガイドライン：

- ・ 一般的な補装具のタイプ：多種多様な補装具の検討は有用
- ・ 移動補助具：歩行や移動の支援（車いす、手動三輪車、松葉杖、歩行杖、歩行器など）
- ・ 姿勢保持装置：機能的活動のための姿勢保持（ウェッジ、座位保持イス、立位保持装置など）
- ・ 義肢装具および整形靴：身体の一部を補うまたは支持・矯正（義足、義手、下肢装具、靴など）
- ・ 福祉用具：生活動作が可能（フォーク、スプーン、シャワーチェア、補高便座、リーチャーなど）
- ・ 視覚補助具：社会参加と自立（拡大図書、拡大鏡、眼鏡、白杖、点字、電子機器、JAWS など）
- ・ 聴覚補助具：教育や就業機会（補聴器、ヘッドホン、音量増幅器、テレタイプライタ、屋内信号装置など）

- ・コミュニケーション補助具：発話支援（コミュニケーションボード、リクエストカード、電子式発話出力装置、電子機器とプログラムの入ったコンピューターなど）
- ・認知補助具：予定や行事の記憶、時間管理、活動準備補助（リスト、日記、カレンダー、スケジュール表、携帯電話や電子手帳など）
- ・補装具の選択：適正技術（環境、文化、社会、経済的要素を考慮してデザイン、製造、選択を）
- ・評価：幅広い分野の人間が参加して包括的評価を行い、利用者のニーズを満たすこと（家庭、学校、職場、地域、身体機能、利用者のゴール、補装具の機能、病歴などを評価）
- ・補装具の使用：バリアフリー環境（屋内移動、屋外へのアクセスなどから環境修正を）

推奨される活動（Suggested activities）：

CBR ガイドライン：

- ・ CBR ワーカーの訓練：
 - 知識（一般的補装具、目的と機能、地元での入手先と入手可能な補装具の種類、特別な補装具入手のための照会システム、助成金制度）
 - 技術（木製椅子、平行棒、杖などの作成、コミュニケーションボードや白杖など使用法の指導）
- ・ 個人と家族の能力形成：補装具の種類と役割の理解、選択とデザインの決定と試用、修理とメンテナンス、照会機関への問題のフィードバックと補装具の調整や交換が可能など
- ・ 地元職人の養成：補装具の作成に関心のある地域の職人の発見と訓練による地域での作成と修理
- ・ 補装具入手の促進：各地域レベルで補装具製造者と提供者の情報収集、照会システム（費用と手続きの頻度や作成機関など）の詳細情報まとめと情報の提供、補装具費用負担の補助金制度や無料の支給制度、照会センター・行政担当局・関連団体と連携して移動施設による地方のサービス提供について検討、センターまでの移動手段の確保、地方での修理サービスや定期的な集合場所の設定
- ・ 小規模作業所の設立：費用や距離の課題が克服できない場合は地元の材料と人材で作成できるよう小規模作成所設立や支援を考慮。
- ・ ネットワークと協力：国内でのサービス開始が困難な場合は近隣諸国からの入手を検討。可能なら国や NGO と協働し、補装具の製造や配布にとりくむ。
- ・ 環境の課題への対処：CBR ワーカーは補装具の使用を困難にする課題に対する実用的な知識が必要。本人や家族、地域や地方当局と協力して対処を。

注目すべき BOX があれば抜粋を紹介（番号を明記）：